宮城学院女子大学後援会会報

MIYAGI GAKUIN SUPPOTERS REPORT 2020 vol.7

保護者の皆様へ

後援会会長
髙橋　博

後援会会報の発行にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

保護者の皆様には、日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

後援会は大学と家庭の連絡を密にし、宮城学院女子大学大学院、女子大学発展の為に後援することを目的としています。

本会は上記の目的を達成するため、保護者の皆様からご協力いただきました貴重な財源を基に学生と大学に対して種々の助成を行っています。

本年は新型コロナウイルス感染拡大防止の対応により非常に残念ですが、後援会活動が大きく制限されております。例年であれば4月の入学式後に後援会の入会式が開催され、5月の後援会総会で前年度の事業報告並びに収支決算報告及び今年度の事業計画並びに収支予算を承認いただき、8月下旬から地区後援会開催等諸活動を展開しているところです。

しかしながら、今年度は各種行事の開催中止を余儀なくされたことから、後援会として事業並びに予算を如何に有効且つ公平に対処出来るかについて常任役員会で議論を重ねました。

結論として、後援会が助成している事業の見直しを検討した結果、削減できる事業費を予備費へ計上し、大学が新たに実施する新型コロナウイルスへの対応に助成させていただくことといたしましたので、何卒ご理解を賜ればと思います。

さて、今年度は大学の学長交代がありました。前任の平川学長におかれましては、様々な改革並びにマスコミへの露出等、宮城学院の名声を高めていただきましたこと、改めまして深く感謝申し上げます。新任の末光学長におかれましては、着任早々新型コロナウイルスへの対応等困難な舵取りをしていただいております。

今年度は、オンライン授業等異例尽くめの年度となりました。コロナ禍では前例がないことばかりで、判断や舵取りが非常に難しい環境にあります。後援会は、学生がより充実した学生生活を送ることが出来るように、且つ大学が益々発展することを念頭に活動してまいりますので、保護者の皆様のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。

結びに、保護者の皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げ挨拶とさせていただきます。

学長挨拶

学長
末光　眞希

4月から学長を拝命いたしました末光眞希です。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度は新型コロナウイルスと共に始まりました。入学式は中止となり、授業開始も一カ月延期になりました。新入生たちには、まずは電子メールの送受信を習得してもらい、5月の連休明けから非同期の資料配信型で遠隔授業をスタートしました。次第にWiFiルーターやタブレットPCの無償貸出し制度を立ち上げ、情報教室の開放などもあって徐々に同期型の遠隔授業へと進みました。

遠隔授業は送る方も受ける方も本当に大変でした。教員は例年の3倍の時間を授業のために費やしました。受ける学生さんも例年に倍する課題を与えられ、四苦八苦したことでしょう。しかし格段に学力が付いたと思います。7月からは実験・実習科目を中心に一部対面授業を開始しました。急がれた困窮学生への経済支援は、5月23日、ようやく整った国からの支援策に本学用意の資金を加え、広範囲の学生を支援できる本学独自の給付奨学金制度を整備することができました。

しかしこれらの学生支援プログラムが最初からスムーズに立ち上がった訳ではありません。むしろ他大学に遅れを取ったことを率直に認めなくてはなりません。学生の皆さんからは校納金返還運動が起こり、保護者の皆さまからも問い合わせを受けました。私たちは5月の遠隔授業の開始に先立ち、「皆さんの学生生活を守るための10の約束」を発表しました。学生の皆さんに本学の教学姿勢を示すとともに、「約束」によって私たちの退路を断ったのです。そして約束を一つ果たすごとに、チェックボックスに✓を入れて行きました。

コロナとの戦いは長期戦になります。もしここでコロナ感染拡大防止を理由に対面自粛を継続したなら、私たちはこれから先三年間、対面活動を再開する理由を持ちません。それはもはや大学ではありません。私たちは入学式や対面授業、あるいは大学祭を<行ってよいのか>ではなく、<どのような>入学式、対面授業、大学祭なら<安全に行えるのか>を問うことにしました。こうして9月9日〜11日の3日間にわたり、「10の約束」の一つ、入学式を挙行することができました。学生たちの弾ける笑顔に大いに励まされながら、これからも彼女たちが守られますように！と祈らずにはおれませんでした。

就任以来、女子大学の存在意義について考え続けています。そして、考えれば考えるほど、女子大学は大切だと思うようになっています。性別を問わず、これからの時代を生き抜く力を養うのは、大学時代における<挑戦>です。失敗してもいいから自分のやりたいことを思いっきりやってみる、そしてその結果を引き受ける。私はこれを「井の中の蛙経験」と呼びたいと思います。世間知らずと言われてもいいから、まずはやってみること。このことにおいて、とくに女性には、ジェンダーを意識せず活動できる井戸が必要なのだと思います。一度井戸の中で泳ぎ方を覚えれば、大海も泳げるのです。134年の歴史を誇る宮城学院女子大学は、これまでそうであったように、女性のための大学しか提供できない豊富な経験を提供しつづけて行きます。皆様のご支援を心よりお願い申し上げます。

Campus Report（キャンパスレポート）「入学式と新入学生歓迎行事を行いました」

約5ヶ月遅れとなりましたが、9月9日〜11日の3日間で2020年度入学式を挙行し、新入学生844名（内、学部生831名、大学院生4名、編入学生9名）が大学生活の新たなスタートを切りました。会場入口では検温・手指消毒を徹底し、会場内も座席間隔を確保、常時換気し安全対策を講じました。入学式の模様をライブ配信しましたので、ご覧いただいた保護者の方々も多かったのではないでしょうか。式典の後は、学科別に新入学生歓迎行事を行いました。ガイダンスや親睦会、学科関係施設案内など、各学科で工夫を凝らして新入学生をお迎えしました。

教員やクラスメイトと親睦を深め、後期授業に向けて気持ちを新たにした一日でした。

入学式

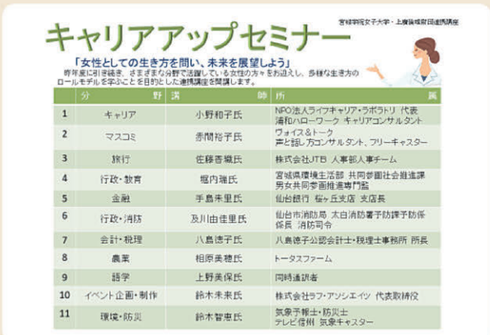
新入学生歓迎行事

「誰一人取り残さない」MGの就職支援

本学キャリア支援課では、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、4年生・大学院2年生の就職相談を、4/20からオンライン面談に切り替えました。出勤する職員数を制限しての対応でしたが、5/11より通常勤務となり面談枠を段階的に増やしました。いくつかのツールを検討、試験導入を経て、オンライン面談の環境整備を行い、現在はMicrosoft Teamsを使用して、全学生を対象にオンライン面談を行っています。また、個別相談だけではなく、教員採用試験対策として複数名でのオンライン面接練習や、他大学との合同オンライン面接練習など、オンラインならではの利点を活かした多様な支援を行っています。一方で、実際の選考試験は対面で行う企業も増えたことから、7/21より感染防止策を徹底して、対面での面接練習も再開しました。マスク越しの表情や声の大きさ、立ち居振る舞いなど、やはり対面でなければできないアドバイスがあり、こちらも連日満員の予約です。

毎年多様な分野で活躍する女性達のお話を聴く「キャリアアップセミナー」は全回オンラインによる動画・ライブ配信となり、後期よりスタートしています。今年度の講師の先生方はOGの方も多く、本学学生のために動画作成など、例年になくお力添えをいただいています。本課は学生がこのコロナ禍であっても、学生が有意義な経験ができたと言えるような支援を続けていきます。

キャリア支援課



宮城学院女子大学・上級学校宮城県連携講座

キャリアアップセミナー

「女性としての生き方を問い、未来を展望しよう」

昨年度に引き続き、さまざまな分野で活躍している女性の方々をお迎えし、多様な生き方のロールモデルを学ぶことを目的とした連携講座を開講します。

	分野	講師	所属
1	キャリア	小野和子氏	NPO法人ライフキャリア・ラボラトリ 代表 浦和ハローワーク キャリアコンサルタント
2	マスコミ	赤間裕子氏	ウィズ＆トーク 声と話し方コンサルタント、フリーキャスター
3	旅行	佐藤香織氏	株式会社JTB 人事部人事チーム
4	行政・教育	堀内雅氏	宮城県環境生活部 共同参画社会推進課 男女共同参画推進専門監
5	金融	手島未里氏	仙台銀行 桜ヶ丘支店 支店長
6	行政・消防	及川由佳里氏	仙台市消防局 太白消防署予防課予防係係長 消防司令
7	会計・税理	八島徳子氏	八島徳子公認会計士・税理士事務所 所長
8	農業	相原美穂氏	トータスファーム
9	語学	上野美保氏	同時通訳者
10	イベント企画・制作	鈴木未来氏	株式会社ラブ・アソシエイツ 代表取締役
11	環境・防災	鈴木智恵氏	気象予報士・防災士 テレビ信州 気象キャスター

宮城学院女子大学後援会事務局（大学事務部庶務課内）
〒981-8557 仙台市青葉区桜ケ丘9-1-1
TEL 022-279-4698　FAX 022-279-7566　E-mail syomu@mgu.ac.jp.

2020年度大学後援会総会 書面表決のご意見・ご質問に関する回答

新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の大学後援会総会はやむを得ず中止となり、書面による議決とさせていただきました。会員の皆さまのご理解とご協力に改めて感謝申し上げます。

さて、2020年度大学後援会総会書面表決の結果については、8/17付で大学ホームページに掲載しご報告しましたが、皆さまから寄せられたご意見・ご質問に対し回答させていただきます。

●新型コロナ対応について●

新型コロナ対応については、学校法人および大学において対応いただているところですが、大学後援会といたしましても学校法人や大学の取り組みにできる限りの助成を行ってまいります。その一環として、学生の入構や行事等で使用する自動検温システムを購入し、予備費より支出いたしました。今後も大学側と相談しながら、後援会予算の有効活用に努めつつ、必要とされる支援を行ってまいります。

●予算（案）「支出の部」について●

増減の大きい項目について説明いたします。「事務費」は、コロナの影響で後援会総会や地区後援会が開催できず、会員の方々に大学や後援会活動について情報提供の機会が減ったことを補うことを目的に、例年は年1回だった会報発行を今年度は2回発行の予定とし、作成費や郵送費等を計上しています。「総会費」「地区後援会費」は、開催方法の変更や中止を反映させています。「学生諸活動助成」は、「課外活動費」には大会の中止等を反映、「大学祭費」はコロナ禍にあっての新しい形の大学祭を支援します。「予備費」は、各種行事の中止等により例年より金額が大きくなっておりますが、予備費の一部はコロナ対応に活用することを予定しております。

【後援会経費で購入させていただきました】

新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、自動検温システム（KAOIRO）を5台購入し、予備費より支出いたしました。学内に設置しており、対面授業のために入構する学生が使用しています。先日の入学式の際にも使用しました。

▲検温とカードリーダーによる入構管理

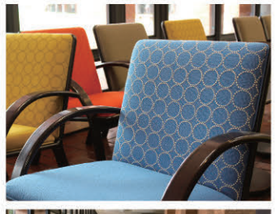
▲入学式の受付の様子

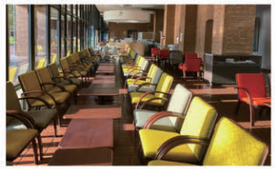
2019年度より2年に渡りブリックハウス（講義館ロビー）椅子（天童木工）の張り替え工事を実施しました。張り地は皆川明氏によるファッションブランド「ミナ・ペルホネン」の代表的なテキスタイルデザイン「tambourine(タンバリン)」柄、デンマークのファブリックメーカー kvadrat（クヴァドラ）社によって生産されたものです。

小さなドットが集まり輪をつくる「tambourine(タンバリン)」柄、文化、伝統工芸を大切にする天童木工、ミナ・ペルホネンのデザインコンセプトは本学の風土にも通じます。

水色、オレンジ、黄色など、鮮やかな色合いが目を楽しませてくれます。コロナが収束した際には多くの学生が集い、明るい空間となることでしょう。

※皆川 明氏：テキスタイルデザイナー。1995年に「minä perhonen」の前身である「minä」を設立。ハンドドローイングを主とする手作業の図案によるテキスタイルデザインを中心に、衣服をはじめ、家具や器、店舗や宿の空間ディレクションなど、日常に寄り添うデザイン活動を行っている。
（minä perhonenオフィシャルサイトより引用）





「ミヤガク新報」発行

構内への入構制限が続く6月初旬、学生や社会への情報発信を目的に、河北新報社と本学がコラボレートした新聞「ミヤガク新報」が発行されました。毎月第1・3水曜日に発行され、9月16日の第8号で最終号を迎えました。「ミヤガク新報」は大学ホームページにも掲載されておりますが、今回はその中の一部を紹介します。

ミヤガク新報 第4号

■サークル活動 再開の兆し
■オンライン説明会で新入生加入活動が活発化

宮城学院女子大学
ミヤガク新報
サークル活動 再開の兆し
オンライン説明会で新入生加入活動が活発化
【お祭りについて】
「レッスンを止めるな！」音楽科の遠隔授業

サークル活動など課外活動の再開が発表されたのに合わせ、学友会に所属する各サークルがオンライン上で自らのサークルの活動内容について紹介する「オンラインサークル交流会」が行われ、新入生に熱いラブコールを贈りました。

例年の新入生勧誘活動は、入学式当日のチラシ配布やオリエンテーション期間中のサークル発表会など全て対面型で行われていました。今年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため課外活動が全面禁止となり、新入生勧誘活動が行われないまま3か月が過ぎました。

このオンライン説明会は、新入生がサークルを選ぶことができず入部方法も分からない状態でいることを懸念した学友会執行部のメンバーが企画しました。7月末まで平日の昼休み時間を利用して開催される予定です。

7月14日現在、20団体以上の説明会が開催され、のべ200名以上の学生が参加しました。参加者が一度に20名以上集まる団体や少人数でも会話が弾む団体など、勧誘活動は好調です。

オンライン交流会を担当している学友会執行部相澤祥可さん（日本文学科3年）は「オンラインサークル交流会は初めての試みで、手探り状態で準備しました。各サークルの負担も大きかったと思いますが、どの団体も意欲的に協力してくれたことで順調に実施できています。」と手応えを感じています。

「このサークル交流会が、新入生にとって大学での大切な居場所を作るチャンスにして欲しいです。ミヤガクで素敵なキャンパスライフを送りましょう。学友会執行委員会もメンバー大募集です。」とあたたかいメッセージを贈りながら、学友会執行部の勧誘にも余念がありません。

MG-LACに所属する各自主プロジェクト団体でもオンライン説明会が開催されるなど課外活動の再開に向け着々と準備が進められています。オンライン化が進んだことで、各学生団体にとっても平常時からサークルのミーティングをオンラインで行うという選択肢が増えたと言えます。

コロナ禍の混乱は、キャンパスライフに革新をもたらすかもしれません。

ミヤガク新報 第6号

■混乱と困難の前期が終了
■後期に向けて高い感染予防の意識を

宮城学院女子大学
ミヤガク新報
混乱と困難の前期が終了
後期に向けて高い感染予防の意識を
地域子ども学研究センターでオンラインセミナー開催

新型コロナウイルス感染拡大によりキャンパスが閉鎖され、開始が遅れた前期授業は全てオンライン化されるなど、今まで経験したことがない激動の前期が終了しました。一部の授業と課外活動は制限付きで再開されたものの、険しい道はまだ続きそうです。

5月7日の前期授業開始日から全ての授業がオンラインで始まり、学生・教職員にとって手探り状態であったことは言うまでもなく、コロナ禍に翻弄された97日間でした。

この期間中に私たちは新しい技術や知識を習得し、今まで不便であったものから解放されたことも多くありました。例えば、オンライン授業は通学の負担がありません。オンデマンド方式は聞き逃しがあっても繰り返し確認ができ、理解が深められるといった思いがけない発見がありました。

一方で、オンラインでは微妙なコミュニケーションが取りにくく、通信環境が不安定になり授業が中断するなどの問題も発生しました。また、対面で行えばスムーズな授業が文字化され、膨大な量の課題になったことにより、多くの時間を費やさなければならなくなった学生も多いはずです。時には一人で黙々と課題に取り組まなければならないという孤独と不安との闘いであったかもしれません。

私たちが日常で行う対面型のコミュニケーションがいかに効率的な方法であるとともに、豊かな生活を維持するためには必要不可欠なものであることを思い知らされました。本学は8月3日に、後期は可能な限り対面式の授業を再開させる方針であることを発表しました。末光眞希学長は「私たちは新型コロナの時代という新しい時代を生き始めなくてはならない。常にマスクを付け、何回も手を洗い、三密を避ける。それは私たちが生きのびるために必要な不自由です。」と話すとともに、キャンパスを利用する教職員と学生の全員が高い感染予防の意識を持って行動するために一丸となることを呼び掛けています。

今年はいつもと違う夏休みとなります。この不自由な時間を前期の疲れを癒すための大切な時間であると捉え、学生と教職員の皆さんには後期に向けて鋭気を養って欲しいものです。